

高粱知るぶふれ



エド

知るぶふれは「高粱を知る」と「シルブプレ」(フランス語で「よろしければ」)をかけ合わせた言葉です。

いてこの世を語るとい
う共通点があるため
です。しかし神楽は、能
や歌舞伎のように欧米
で知られていません。
なぜだろう。社会で果
たす役割も、しきたり



子供神楽が各地で行わ
れ、深夜まで大勢の人々
が集う理由は、福の種を
もらうことではなく、神
楽の純粹さ、変わらぬ地
域の宝に触れるためでは
ないでしょうか。

神楽は欧米人にギリシャ悲劇を思
い出させると思います。それは、共
に儀式的起源があり、音楽に舞踊と
演劇を交ぜた芸術で、神話に基づ

神楽は、1年に1回の演舞を見るた
めに、長い歴史のなかで地域の人に
守られ続けた、集団的な町づくりの
手段だったのです。

私、市の国際交流員(CIR)・エ
ドゥアール・ブレナが、地域のため
にイニシアチブ(先導、主導の意を
發揮している人に話を聞いていくこ
のコーナー。今回は、秋祭りで奉納
された備中神楽の演目を観てから、
阿部社の神楽太夫3人にお話を伺
い、欧米と日本の演劇を比較して考
察してみました。

も、それぞれ違いすぎて、欧米人に
は何が祭りで何が芸術なのかが分か
らないからかもしれません。
神を前にした人間の無力を示し、
情念を浄化するという説教に富んだ
ギリシャ悲劇は、物語が現実から離
れるにつれ、お金をかけて文化を楽
しむエリートの気晴らしの1つにな
りました。一方で、神様を奉納する



阿部社の神楽太夫3人にお話を聞く。左
から竹丸守さん、上山直樹さん、西育二
さん。



上山さんに舞いを教わるエド。足の運
び、手首の返し、…簡単にできるように
はなりません。

協力隊がゆく

15

こんにちは！
9月に地域おこし
協力隊に就任した
松野です。

松野夏子
隊員



私は現在、古民
家を再生する活動
を主に行っています。宇治
町にある宿泊施設「元仲田
邸くら屋敷」の隣、分家で
ある西仲田邸は築約140
年。空き家になってから

も傷んでいます。それで
も、この古民家再生を地
域の再生にも役立てるた
めに、今はまず古民家再
生に成功した方々のお話
や視察、創業塾や各種セ
ミナーで学ぶ日々です。

長く、私とその家を知った時は解
体が決まっていたのですが、この素
晴らしい日本家屋を何とか残した
いと働きかけている間にご縁が繋
がり、自らそこに住むことを決め
ました。

また、いざれ店舗としてお披露
目する前から楽しんでいただき
たく、現在の西仲田邸の見学会や
ワークショップを企画していま
す。インターネットのフェイス
ブックページ「古民家再生プロ
ジェクトin高梁市」では、工事日
記やイベント情報をお知らせして
います。

「古き良き物を活かしたい！」
「この家の再生がうまくいけば、
地域に点在する空き家の数だけ仲
間が増やせるのでは…」そんな思
いでひたすら家の修理に明け暮れ
ています。

この古民家で、いずれはカフェ
を開店したいと目標を立ててい
ますが、建物は大きく、内も外



現在の西仲田邸内



松野隊員は高梁市
初の女性隊員